

【保健環境研究センター1月だより～ノロウイルスによる胃腸炎集団発生について～】

ノロウイルスは、冬季に多く発生がみられるウイルス性急性胃腸炎の主な原因ウイルスです。ノロウイルスは経口感染によりヒトの小腸で増殖し、吐物や糞便とともに排泄されます。患者から排泄されたノロウイルスが、手指やドアノブ等を介してヒトからヒトへ感染します。また、ノロウイルスは食中毒の原因ウイルスとしても知られており、加熱不十分な二枚貝やウイルスに汚染された食品の喫食により引き起こされます。

当センターにおいても冬季を中心に食中毒事例や集団感染事例からノロウイルスを検出しています(図1)。集団感染事例について施設別に発生状況を調査した結果、ここ2シーズンは小学校を中心に事例数が増加していました(図2)。

今シーズンも既に、ノロウイルスによる集団感染事例が県内で発生しています。本格的な流行に備えて手洗いなど感染予防に十分注意してください。

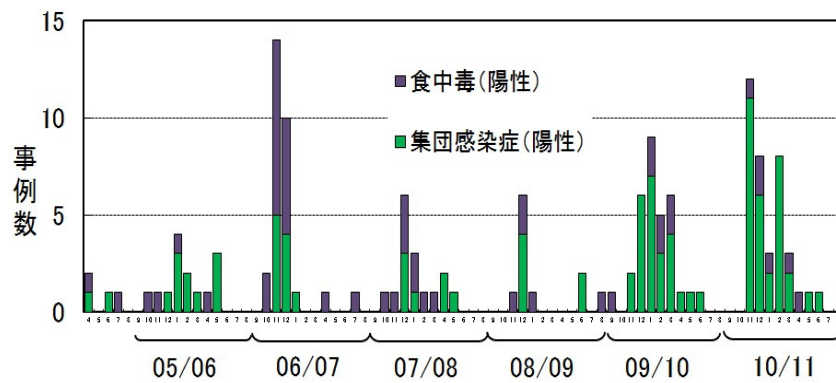


図1. ノロウイルス陽性事例数(当センター検出分; 2005年4月～2011年8月)

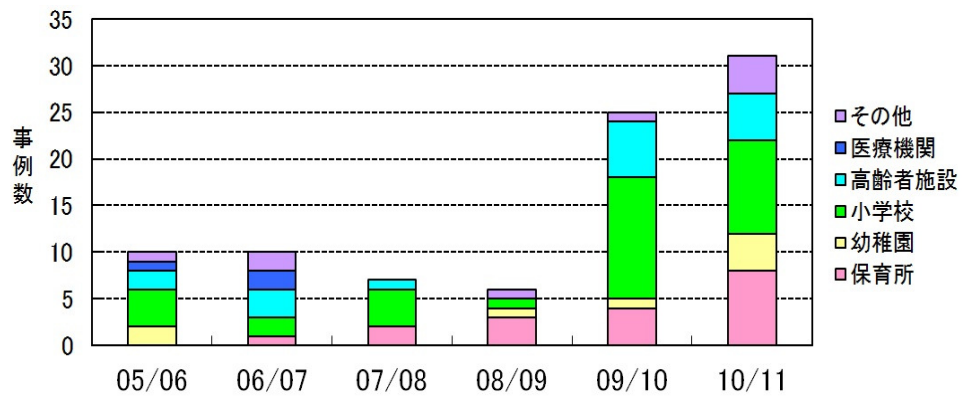


図2. ノロウイルス集団感染事例の施設別発生状況 (2005/2006シーズン～2010/2011シーズン)

(ウイルスチーム 米田 記)